

2000.5.23

2000年3月期 決算説明会

—業績の状況、今期の事業展開—

杏林製薬株式会社

2000年3月期 決算概観(連結)

売上面では、医療用医薬品が国内及び輸出とも堅調で前年比 9.4%増、ヘルスケア事業もミルトンの通期業績寄与により79.8%増。輸出ではガチフロキサシンのアメリカ上市による増加やライセンス契約による契約金収入があり、前年比 43.6%増。全体では、売上高 527億76万円(過去最高)となり前年比12.5%の増収となった。

利益面では、経営効率化を推進した結果、原価率が若干上昇したものの販管費率が低下し当期純利益は43億10百万円となり前年比85.3%の増益。

2001年3月は、薬価改定(当社改定率5.8%)の影響も想定され売上高532億円(前年比0.8%増)、当期利益22億円(前年比 49.0%減)の見通し。

単位:百万円

	97年3月期	98年3月期	99年3月期	2000年 3月期	前年比	01年3月期 見込み	前同比
売上高	50,956	47,179	46,932	52,776	12.5%	53,200	0.8%
営業利益	8,153	6,392	6,366	8,646	35.8%	7,800	-9.8%
経常利益	8,615	6,137	6,687	8,795	31.5%	8,100	-7.9%
当期利益	3,954	2,303	2,325	4,310	85.3%	2,200	-49.0%
EPS	69.05円	40.01円	40.41円	74.89円	—	38.22円	—
総資産	110,920	113,190	112,007	117,606	5.0%	—	—
株主資本	89,395	90,951	92,547	97,868	5.7%	—	—

2000年3月期 業績の状況(単体)

単位:百万円

	99年3月期	00年3月期
売上高	45,919	51,518
医療用	44,119	48,281
国内	39,315	41,381
海外	4,804	6,900
その他	1,799	3,236
営業利益	6,266	8,495
経常利益	6,594	8,595
当期利益	2,336	4,194

< 当期のポイント >

■ 売上高 +55億円

< 医療用医薬品 > (+41億円)

国内:主力製品が堅調 (+20億円)

ムコダイン 143 155

ケタス 65 71

ペンタサ 26 33

輸出: (+20億円)

・ガチフロキサシンの輸出開始

・KRP-297のライセンシング締結
の契約金収入

< その他 > (+14億円)

ミルトンの年間を通じた業績寄与

2001年3月期 業績の見込み(単体)

単位:百万円

	00年3月期	01年3月期 (見込み)
売上高	51,518	52,000
医療用	48,281	48,400
国内	41,381	41,200
海外	6,900	7,200
その他	3,236	3,600
営業利益	8,495	7,700
経常利益	8,595	7,900
当期利益	4,194	2,000

< 今期のポイント >

- **売上高** (+ 4 億円)
 - < 医療用医薬品 > (+ 2 億円)
 - 国内: 薬価改定 改定率 5.8%により横バイ
 - 輸出: ガチフロキサシンの増収を見込む
 - ノルフロキサシンは減収の見込み
 - < その他 >
 - ミルトンの売上拡大を見込む (+ 3 億円)
- **経常利益** 7,900百万円 (- 6 億円)
 - * 従来特損で処理していた能代工場を今秋より販管費で処理するため
- **退職給付債務**
 - ・積立不足額: 9.5 億円
 - ・償却年数: 3年
 - ・割引率: 3.0%
 - * 毎期の減価償却額 3.1 億円
- **当期利益** 2,000百万円 (- 2.1 億円)
- **配当** 15.00円の予定

主要開発品 ~ ガチフロキサシンの状況 ~

1) 国内外の状況

ガチフロ
キサシン

日本 杏林製薬 '99年3月 承認申請

* 大日本製薬との併売 覚書締結(2000年4月)

米国 BMS '99年12月 上市

* シェリング・プラウとコ・プロモーション(2000年3月)

欧州 グリュネンタール '99年12月 承認申請

2) 輸出の状況

単位: 億円

	1999年3月期	2000年3月期	2001年3月期(見込み)
輸出合計	48	69	72
ガチフロ	0	27	48

3) ライフサイクルマネジメント

適応追加(小児)、剤形追加(注射、点耳、点眼等)

中期計画：キョーリンMIC'02計画

1) 基本方針

「破壊と創造；新しい杏林の構築」

2) 2003年3月期

売上 650億円

経常利益率 25%

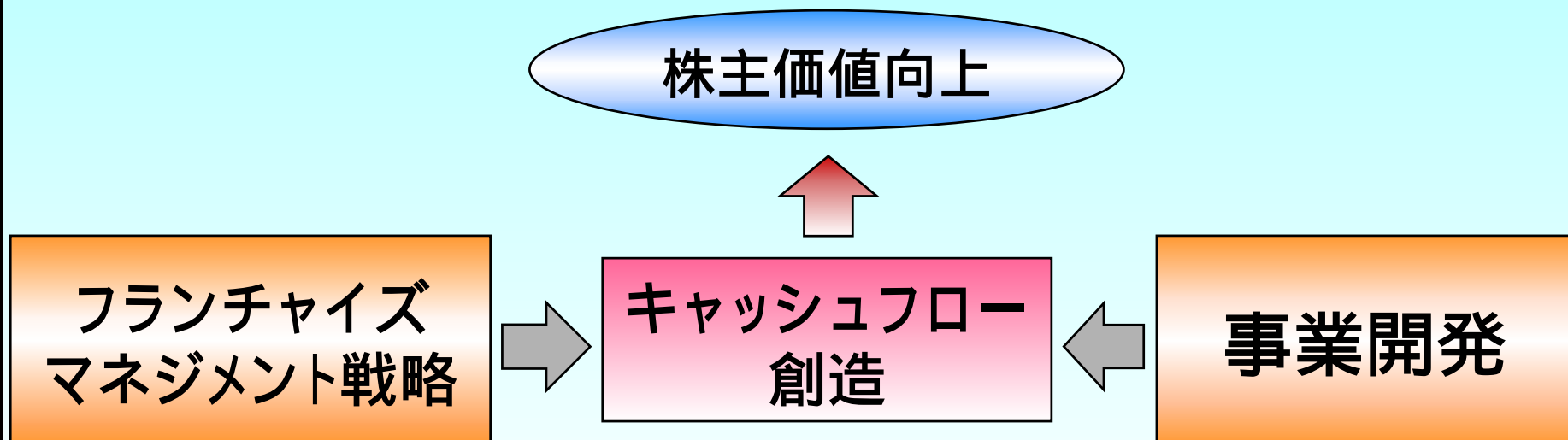
ROE 7%

販管費率 46%

人員 1600名 1700名 体制に修正

基本戦略 2つの軸

当社は、強みを発揮出来る領域を絞り込みそこへ経営資源を重点的に投下する フランチャイズマネジメント戦略 と余剰キャッシュを活用した 事業開発 を2つの軸として株主価値向上に取り組みます。



フランチャイズ マネジメント戦略

F M 戦略

企業として重点顧客を選定しマーケティング志向のもとにR & D活動と営業活動の選択・統合・集中を図り効果と効率を高めつつ持続的な成長を具現化する戦略

フランチャイズポートフォリオ戦略

R & D領域の重点化

- ・感染症
- ・免疫・アレルギー
- ・その他(脳 糖尿病)

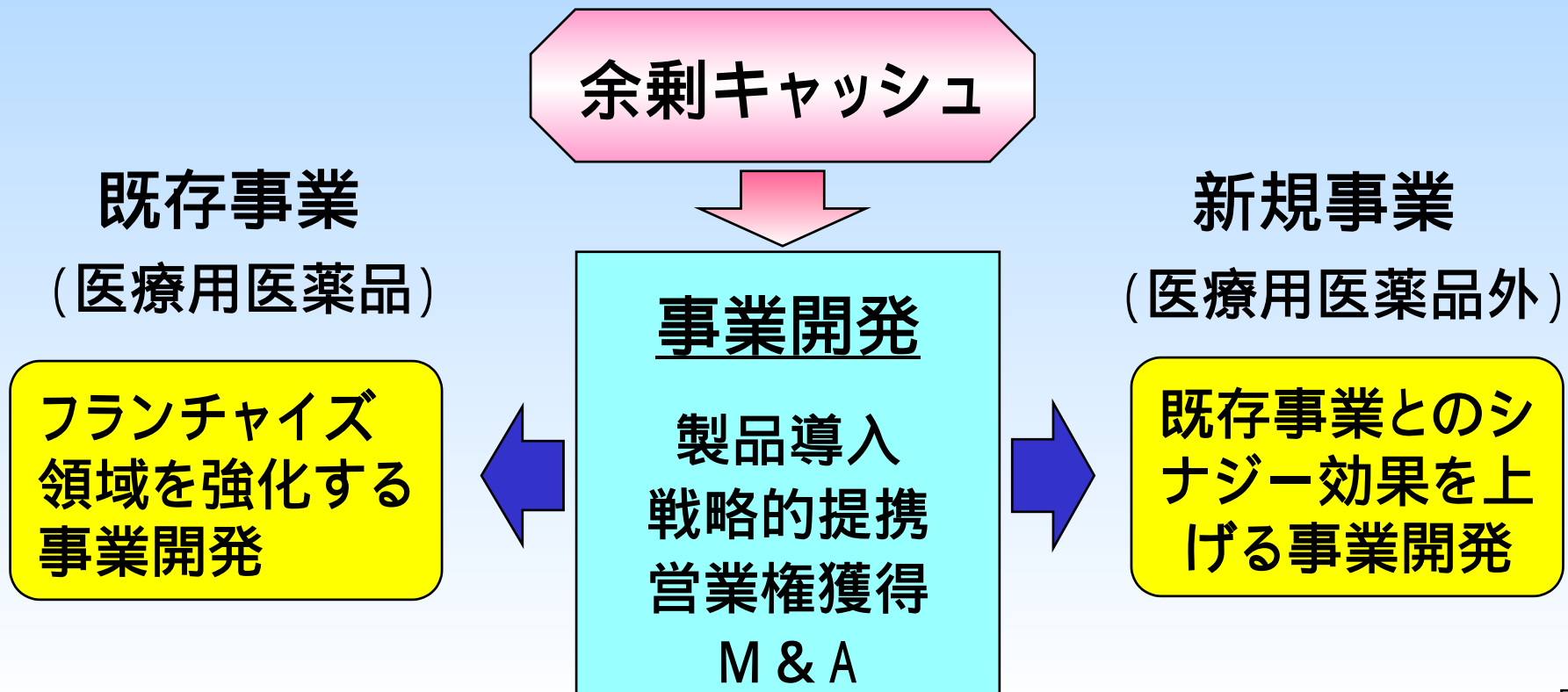
フランチャイズカスタマー戦略

マーケティング領域の重点化

- ・呼吸器内科
- ・耳鼻科
- ・泌尿器科

事業開発による成長

余剰キャッシュを活用した事業開発により成長を加速させ、業界再編における主体性を確保し、環境変化にも適切に対応していきます。



医療用医薬品における事業開発の成果

メルク社

BMS

グリュンタール

KRP-297

モンテルカスト
リザトリプタン

ガチフロ
キサシン

ガチフロ
キサシン

杏林製薬

フランチャイズ領域強化、販売効率極大化、研究開発スピードアップ

クロス1品

ガチフロ
キサシン
(共同販売)

ベストロン
耳鼻科用

バクシダール
点眼液
ケタス点眼液

クロス1品

ペキロン
クリーム

大日本製薬

千寿製薬

佐藤製薬

2001年3月期 重点的事業展開

1. 創薬機能の強化と新薬開発のスピードアップ
2. 営業体制の再構築
3. 業務のスリム化
4. 新規事業の拡充

1. 創薬機能の強化と新薬開発のスピードアップ

創薬機能の強化

- ・ 外部創薬シーズの積極的活用
(国内外大学との提携、ベンチャーファンドの活用等)
- ・ 中央研究所の創薬空間の創出

新薬開発のスピードアップ

- ・ CROの活用による海外臨床の推進(KRP - 197等)
- ・ メルク社とのKRP - 297の共同開発の推進
- ・ 積極的な研究提携、海外導出・共同開発の推進

2. 営業体制の再構築

フランチャイズカスタマー領域への重点的営業活動

- ・ 本社営業組織を領域別に再編
- ・ ドラッグインフォメーション(DI)力アップのための教育
- ・ 3科(呼吸器内科、耳鼻科、泌尿器科)医師への訪問強化

フランチャイズカスタマー情報の一元管理

- ・ IT活用による情報の一元化とその活用

MRの増強

現在	2000年度	2001年度
550名	600名	650名

3 . 業務のスリム化

IT (情報技術) を軸にした人的生産性向上

- 1998年 グループウェアの導入
- 1999年 会計2000 (キャッシュレス、ノン伝票)
学術支援システム (情報提供のスピードアップ)
MR2000 (MRの行動効率化支援) の稼動
- 2000年 FC2000 (ユーザー情報の一元管理) の導入

物流部門の3PL (サード・パーティ・ロジスティクス) 化

- ・ 日立物流(株)への全面委託 基本契約締結 7月稼動

間接部門のスリム化

- ・ 野木業務センターの発足 (野木地区の庶務機能集約化)
- ・ 支店管理機能の集約検討

< 人員の推移 >

1996年3月期	1999年3月期	2000年3月期	2003年3月期
1976人	1823人	* 1677人 (1720人)	1700人

* 開示省令の変更により出向者人員数が含まれておりません

4. 新規事業の拡充

1) ミルトン事業の現況

2000年 3月期
30億円

2001年 3月期
33億円 (見込み)

2) 新しい事業開発の仕組み検討

事業ドメイン「健康貢献企業」に適合し、現在より幅広い事業開発が図れるような新しい仕組みを検討中。

- ・ 成長の加速
- ・ 医薬品事業の不確実性リスクの補完
- ・ 資本の効率的運用

主要開発品一覽 (2000年3月31日現在)

開発段階	製品名・開発コード	薬効	起源	上市見込	特徴	備考
申請中	ケタス点眼液	抗アレルギー剤	自社 萬有製薬と 共同開発	2000年	好中球・好酸球の遊走・活性化を抑制し、Ⅰ型アレルギーばかりでなく、Ⅱ型アレルギーにも奏効。	4月14日 新発売 *千寿製薬に販売委託
申請中	ミロル点眼液	緑内障用剤	アラガン	2000年	1日1回、ブロッカー	
申請中	ガチフロ錠	合成抗菌剤	自社	2001年	呼吸器感染症、特に肺炎球菌、P R S Pを含む各種薬剤耐性菌にも効果。経口で、注射並みの血中プロファイルを示す。	< 海外 > 米国: B M S 社より 99年12月発売(シェリング・プラウトコ・プロモーション) 欧州: グリュネンタールより 99年12月申請。 < 国内 > 大日本製薬と併売 (2000年4月 覚書締結)
申請中	キプレス錠10 キプレス チュアブル錠5 (小児用)	気管支喘息 治療剤	米メルク社 萬有製薬と 共同開発	2001年	世界初の1日1回投与 LT 受容体拮抗剤。就寝前投与で喘息症状の管理、ステロイド吸入剤の減量効果が認められる。小児適応有(6歳以上)	< 海外 > 米国: メルク社により98年2月発売。 欧州: 98年1月発売(英国他)
P h	N - 3 3 8 9 錠	制吐剤	日清製粉 同社と共同 開発	-	5 - H T 3 と 5 - H T 4 拮抗作用を併せ持つ。	
P h	ペキロン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	ロシュ 資生堂と 共同開発	-	日本初のネイルラッカー製剤。	
P h	K R P - 1 9 7	尿失禁治療剤	自社	-	抗コリン作用が強く、口渇少ない。	
P h	K R P - 2 9 7	糖尿病治療剤	自社 萬有製薬と 共同開発	-	インスリン抵抗性改善作用と糖尿病に伴う脂質代謝異常にも効果。	米メルク社に導出 (99年9月)